

持続可能な滋賀社会ビジョン「骨子と構成」(案)

- 1 背景とねらい
 - (1)背景
 - (2)ねらい
- 2 指標と目標
 - (1)脱温暖化の実現
温室効果ガス排出量を半減
 - (2)琵琶湖流域環境の再生
琵琶湖の在来種の増加、県民の暮らしと琵琶湖の関わりの再生
- 3 2030年の滋賀の姿
 - (1)2030年の社会経済の想定
 - (2)現状推移型の社会像
 - (3)持続可能な滋賀の社会像
- 4 目標を実現するために必要となる対策
 - (1)脱温暖化の実現
 - a 温室効果ガス排出量半減のための主な対策
環境配慮行動
再生エネルギー
交通構造改革
技術革新(エネルギー効率改善)
燃料転換
電力原単位の低減
 - b 各主体の役割
県民、事業者、市町、県、国の役割
 - c 具体的な行動・対策
事業者行動政策 効率製造機器の導入、カーボンオフセット・・・
生活者行動政策 省エネ行動・・・
社会経済システム 税制と金融による支援、制度による規制・・・
 - (2)琵琶湖流域環境の再生
- 5 重点プロジェクト例
 - (1)脱温暖化の実現
 - a 持続可能な交通システムやそれを可能にするまちづくり
 - b 輸送距離の低減や地産地消を促進する木材や農産物の流通システム
 - c 生活者や事業者の環境配慮行動(実践)を誘導するしくみづくり
 - d 産業界と協働したCO₂削減のしくみづくり
 - e エコ商品の販売促進など消費面でのCO₂削減の支援システム
 - (2)琵琶湖流域環境の再生
- 6 資料
推計ツール、分析に用いたデータ等